

やさしい中学地理 14-1 チェック問題 氏名

- (1) 漁業は大きく 2 つに分けることができる。川や湖、池などで魚介類をとる〔① 漁業〕と、海で魚介類をとる〔② 漁業〕である。
- (2) 陸地から遠く離れた海で、大型の船を使って行う漁を〔① 漁業〕という。海岸から 80~200km くらいの沖で、中型の船を使って行う漁を〔② 漁業〕という。陸地に近い海域で、小型の船を使って行う漁を〔③ 漁業〕という。これらをまとめて〔④ とる漁業 / 育てる漁業〕という。
- (3) 魚介類を、いけすなどの施設で小さいときから育て、大きくしてから出荷する漁業を〔① 漁業〕という。一定の期間育ててから海や川に放流し、その後自然の中で成長したものをとる漁業を〔② 漁業〕という。これらをまとめて〔③ とる漁業 / 育てる漁業〕という。
- (4) プランクトンが異常発生し、水面が赤く染まって見える現象を〔① 赤潮〕という。これによりたくさんの魚や貝が死んでしまう。1970 年代には〔② 赤潮〕が起こり、石油の価格が上昇したことから、遠洋漁業が減少した。また多くの外国では 200 海里の〔③ 排他的経済水域〕を設けており、自分以外の国の漁船による漁を制限している。これらのことから最近、日本の水産業は〔④ とる漁業 / 育てる漁業〕に力を入れている。

(1)	(1)②	(2)①
(2)②	(2)③	(2)④
(3)①	(3)②	(3)③
(4)①	(4)②	(4)③
(4)④		